

◆【海員随想】越前ソバ

長田武士

わが家の近くの小中学校の児童たちが育てているソバ畑の白い花がきれいに咲いた。最近では食育のためか、あちこちの学校で盛んに作られている報道を新聞などで見かける。自身が世話に励み、食し、食育の大切さを知る機会を得ていることは、まことに結構である。チラシなどで国内至る所で「ソバの産地、名所」とPRしている「ソバ」は、やせ地でも作れるし、健康食でも大いに役立っている。

福井では「越前ソバ」なる名で全国でも知られる銘柄の一つだと確信している。では「越前ソバ」なる名称はどうして生まれたのか。昭和天皇（昭和天皇はソバが好物とか）が芦原市のご宿泊先で行事の際にお召し上がりになり、帰京後皇居でこのソバのことを思い出され「ああ、あの越前ソバ」とご発言になり、それが広く世間に伝えられ、今日に至っているようである。

「ソバ」といえばかつて乗下船のおり、ホームに降りて吹雪く中で、立ち食いの熱いソバをふうふうしながら食べたことを懐かしく思い出す。下船の際はなお、うまいものだ。

芸の上にも数多く出てくる落語の「二八そば」や元禄 14 年 3 月、赤穂城主（本家は広島浅野家）浅野長矩公が江戸城松の廊下で吉良義央公を刃傷（傷つける）の末、お家断絶、自身は切腹。同 15 年 12 月 15 日、大石内蔵助以下四十七士が仇討ちをするのであるが、その討ち入り前、四十七士の一人、杉野十平次が屋台のそば屋に身をやつし、吉良邸の様子を探ることなど講談、浪曲でなじみ深い。毎年 12 月に入ると講談、浪曲などはラジオ、テレビで放送されていることはご承知の通り。

そのほかソバに関して話題は尽きないもの。イベントとして素人のそば打ちコンクールなども催されているくらい春夏秋冬いつ食してもうまいが、これからの寒さ厳しいころのソバの味は絶品である。旅先でのソバ、それも一つのささやかな楽しみ。

師走ともなると何とんでも「年越しソバ」

地方によってはない所もあるようだが。

ここで一つ「信州信濃の新ソバよりもわたしゃ越前ソバがよい」

「海員だより」